

1 取組の概要

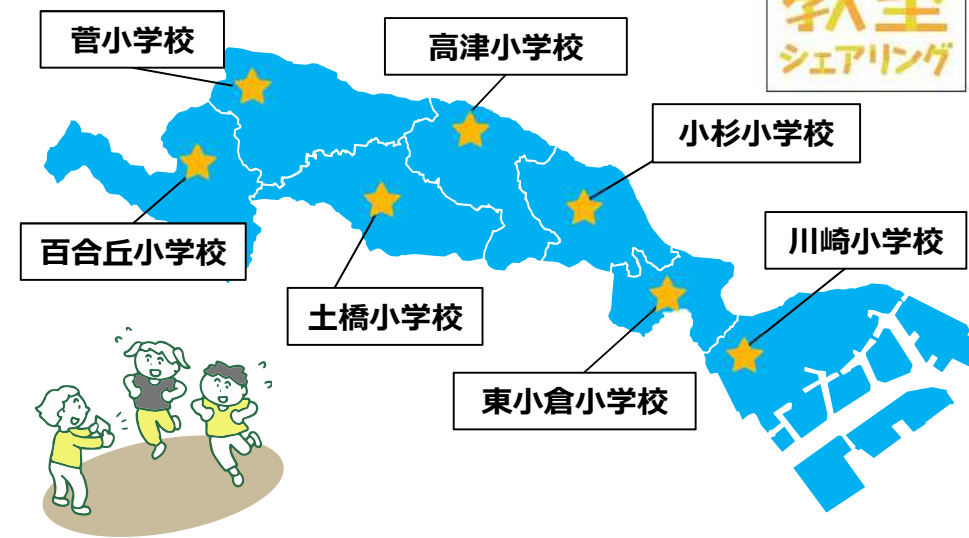
1 Kawasaki教室シェアリングプロジェクトとは

- 学校施設開放においてよく使われている校庭や体育館だけでなく、**特別教室等の更なる有効活用**を進めるため、令和元年度から取り組んでいる。
- 学校教育に支障のない範囲で、学校が市民共有の財産として、より利用しやすい場所となることを目指す。
- 令和元年度に、新城小及び小杉小で新たな利用の可能性を探るためのイベントや、中野島小で新たな管理手法を探る検証を実施

2 今年度の取組

- 令和4年7～8月、利用ニーズの把握等を目的に、市民向けに**学校施設の更なる有効活用に向けたアンケート**を実施
- 今年度は各区1校をモデル校に定め、学校施設の更なる有効活用に向けた**ワークショップ**や**お試し開放**、**実証実験**を実施

3 各区におけるモデル校



4 アンケートの実施結果

(1) 概要

調査対象：市内在住・在勤・在学の個人、市内で活動している団体
 実施期間：令和4年7月19日～8月15日
 回答数：654件（個人476件、団体178件）

(2) 主な回答

- 4割以上の方が「学校施設が開放されていることを知らなかった」
- 7割以上の方が「特別教室等を今後利用してみたい」
- 利用手続の簡略化や利用状況の可視化を求める声が多数
- 休日午前・午後の利用ニーズが高い。

※アンケート結果の詳細については、以下に掲載

<https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000144687.html>

教室シェアリングアンケート結果

検索

2 市民との協働による取組

1 ワークショップの開催

(1) 概要

- 特別教室等の新たな利用方法の掘り起こし等を目的として実施
- 主な対象はアンケートの回答者
- 将来的な利活用に向けたアイデアを出し合う
- 会場は3つのモデル校の特別教室等



(2) 実施日等

- 百合丘小学校：10月7日、11月10日
- 土橋小学校：10月22日、11月12日
- 川崎小学校：10月28日、11月17日

【ワークショップの参加者から出た意見】

- 学校には、**多世代のつながりを作りやすいポテンシャルがある**と思う。
- **単なる場所貸しではなく、学校という施設の特徴を生かした使い方**をしていきたい。
- **子ども達がいろんなことを体験・学習できる場**になってほしい。
- 誰でも先生、誰でも生徒になれる「みんなのがっこう」になれるといい。
- **学校と地域のつながりが深まるような使い方**になるといい。
- 学校にゆかりのある人達の交流の場になれるといい。
- 単発ではなく、継続的な使われ方がいい。
- **卒業したら終わりではなく、ずっと学校に関われるよう**になれるといい。
- 教室にある備品のメンテナンスに利用者なども関わるといい。
- 先着順の予約にならない工夫があると良い。
- **学校に負担がかからないように**しなければならない。
- 児童・生徒の作品等が展示されていると、個人が特定されてしまわないか心配だ。
- 利用内容によっては使用料を徴収してもいいのではないか。



▲百合丘小でのワークショップの様子



▲土橋小でのワークショップの様子



▲川崎小でのワークショップの様子

2 お試し開放イベントの開催

- 本プロジェクトの取組を広く周知すること等を目的として実施
- 東小倉小学校では、幸区を拠点に活動している地域団体と連携して、子ども向けの体験講座を実施
- 左記のワークショップ開催校では、ワークショップ等を通じて出たアイデアをもとに、イベントを実施
- 参加者からは、「学校だと安心して参加できる」、「自宅から近いので参加しやすい」といった声が寄せられた。

日程	学校	使用教室	主な内容	参加人数
11/26(土)	東小倉小	コミュニティルーム 第2音楽室	・ 科学者体験 ・ 音楽と絵本のサロン	43名
1/22(日)	百合丘小	特別活動室	・ ぼうさい出前講座 ・ 防災備蓄倉庫見学 ・ みんなで合唱 ・ ものづくり体験	24名
2/4(土)	土橋小	特別活動室 図工室	・ 哲学対話 ・ 16mmフィルム映画上映会 ・ お菓子づくり体験 ・ 鍵盤ハーモニカ体験	●名
2/5(日)	川崎小	多目的室	・ コミュニティカフェ ・ ものづくり体験 ・ カンタン救命AED講習 ・ 多文化共生を考える講演等 ・ 16mmフィルム映画上映会 ・ パブリックビューイング	●名



▲小学生向け体験講座



▲乳幼児親子向けイベント

※4校のお試し開放に関わった方たちとの振り返り会を2月25日、高津中学校特別活動室で開催予定

3 学校施設の更なる有効活用に向けた実証実験

1 概要

- 空いている特別教室等をさらに活用できるようなしくみづくりの検討
- 校庭や体育館を含めた利用手続等の運用方法の見直しに向けた検証
- 民間提案制度を活用して、3つのモデル校で実証実験を実施

2 検証課題

(1) 利用手続の簡素化及び予約状況の可視化

- 紙による予約管理等に対する利用者及び管理者の負担軽減（利用手続の簡素化）
- 新たな利用を誘引するため、いつでもどこが空いているか誰でも確認できるしくみづくり（予約状況の可視化）

(2) セキュリティ管理

- 利用時間帯が学校教育で使用する時間以外であることから、管理者の常駐を必要としない施設管理のしくみづくり（遠隔による入退室履歴の把握）
- 利用者及び教員の負担軽減の観点から、鍵の受渡しが必要となるしくみづくり（無人による解錠システム）

3 民間事業者との連携

- 令和4年9月に公募、審査の結果、実証実験の連携事業者として(株)構造計画研究所と10月に協定締結
- **予約システム及び各種スマートロック機器の無償提供**
- 各種機器の設置や環境整備に伴う費用は本市負担

(1) 予約システム

- 公共施設向けのクラウド型予約システム「**まちかぎりリモート**」
- 空き状況の確認・予約・鍵の受け渡し等までワンストップでの提供可能
- **スマートロックと連動することで、利用者の予約情報から暗証番号を自動作成**

(2) スマートロック

- 屋内の開き戸を対象としたWi-Fi通信型の「**RemoteLOCK**」
- 自動ドアや屋外の電磁錠などを対象とした有線LAN通信型の「**TOBIRA**」
- 上記2つの設置条件を満たさない場合は、「**RemoteLOCKを用いた鍵ボックス**」を周辺に設置

4 地域や学校との連携

- 令和4年10月から各モデル校の**学校長やPTA、学校施設開放運営委員会と実験内容等について協議・調整**
- 令和4年12月下旬から予約システムの操作練習を開始
- **令和5年2月利用分から予約システム及びスマートロックでの試行運用を開始**

5 実証実験の内容

学校	場所	Remote LOCK	TOBIRA	鍵ボックス	まちかぎりリモート	備考
小杉小	地域ラウンジ	○(玄関)	○(門)	-	○	物理鍵完全廃止
	校庭・体育館	-	-	-	○	
高津小	特別活動室	○(玄関)	-	○(門)	○	門のみ物理鍵
	校庭・体育館	-	-	-	○	
菅小	特別活動室	-	-	○(門)	○	すべて物理鍵
	校庭・体育館	-	-	-	○	

※まちかぎりリモートで予約の申込等を行うことで、紙による利用申請等の手続きを試行的に省略

「まちかぎりリモート」の利用フロー



RemoteLOCK/TOBIRAによる管理イメージ



4 今後の取組の方向性

1 学校施設有効活用事業のあり方検討

(1) 現状の把握

- 学校施設開放運営委員会を中心に、利用団体の相互協力による運営が基本
- 具体的な運営方法や特別教室等の配置が学校ごとに異なる。
- 令和4年10～11月、小・中・特別支援学校の全170校に対し、ヒアリング及び現地調査を実施

(2) 利用団体及び学校からの意見

- 紙の書類が多いことや鍵の受渡しなどがあることは**利用団体及び学校にとって負担**
- 利用団体及び学校ともに、**手続き等の電子化に向けた取組に対する賛同多数**
- 利用団体からは、使用料支払いの電子決済化といった更なる要望もあった。

(3) 他都市における効果等

- 教職員の負担軽減等のコスト削減（茨城県小美玉市）
- 管理者の負担軽減と利用者の利便性向上を実現（東京都調布市）

学校が市民共有の財産として、より利用しやすい場所となるために

- 現地調査に基づき、開放可能な特別教室等を分類化
- 各取組の結果等を踏まえ、課題等を整理
- 学校施設開放運営委員会等との合意形成を図りながら、地域と協働で検討

2 今後のスケジュール

2月中旬～	実証実験参加者等に対するアンケートやヒアリング
2月25日	お試し開放イベント参加者との振り返り会
～3月上旬	開放可能な特別教室等の分類化
～3月下旬	各種取組の検証、課題整理
令和5年度以降	今後の事業のあり方を検討